

アグリランド

とっぴ

BIZEN WAKE AKAIWA



2019
年度号

目 次

次代の担い手を育てます！

～新規就農者の確保・育成と法人経営体の経営発展～ 1

スマート農業実証中！ 3

集落営農組織の多角化による経営強化 4

白ねぎの初夏どり品種の検討 5

「白皇」の出荷始まる！ 6

「オーロラブラック」“盆前出荷”で需要をつかむ 7

経営管理をステップアップ！ 8

6次化で儲かる農業となるために！ 9

しきみ管理作業らくらく技術！～低木仕立ての推進～ 10

四ツ☆子牛の認定率向上を目指して！～和牛繁殖農家の取組～ 11

各種表彰受賞団体・受賞者の紹介

～皆さん おめでとうございます～ 12



次代の担い手を育てます！

～新規就農者の確保・育成と法人経営体の経営発展～

東備地域には、特色のある農産物の産地がたくさんあります。しかしながらその産地も、農業者の高齢化等により規模の縮小が危惧される状況にあり、産地と関係機関が連携して行う担い手の確保・育成は“待ったなし！”の状況にあります。

普及指導センターでは、他産業からの参入希望者や、農業大学卒業生、Uターン就農希望等、多様な就農スタイルがある中で、関係機関と連携をとりながら、就農希望者に対応しています。また、就農5年以内の者を重点指導対象者と位置づけ、栽培技術や経営管理能力の習得を支援しています。

1 もも産地の受入準備が整いました！

就農希望者に行う農業研修制度は、1ヶ月の体験研修のあと、就農に向けた実践的な研修を行う実務研修（2年以内）制度です。産地と関係機関が連携して研修生の受け皿となる体制をつくり、地域ぐるみで研修生を迎え入れます。

就農希望者が現れた場合に即行動できるよう、受入意向のある農家を訪問したり、受入の際の留意事項等を学ぶために、受入実績の多い他産地を訪問研修したり等、受入産地の意識付けを図ってきました。

タイミングにも恵まれ、新たに3組の就農希望者が体験研修の面接に合格し、次のステップに向けた準備を進めています。うち2組は、これまで受入実績のなかった山陽地区のもも産地が受け入れます。



受入意向農家を訪問



受入先進産地を訪問

2 本気で農業を志す方を応援します！

（1）就農オリエンテーションで産地の魅力をPR！

受入体制が整い、就農希望者を受け入れる産地の思いも高まっている中、普及指導センターでは、東備地域の産地の魅力を県内外に発信するため、就農相談会（県内、大阪、東京）を開催したり、大手就農支援サイトの記事を作成し就農希望者の確保に努めています。

また、「産地を知るには、まず現地訪問から」という思いで、就農オリエンテーションを年2回開催し、本気で農業を志している方をこのオリエンテーションに誘導しています。



なす産地を訪問

（２）万全の準備で農業を始めよう！

就農に向けて歩み始めた実務研修生に対しては、栽培技術の向上や、産地への定着、農地の取得見込み等、就農に向けた支援を行っています。また、同年代のつながりを持つことで、就農後の情報収集がスムーズにできるよう、新農業経営者クラブの活動等にも参加を呼びかけています。

また、研修を活用しないで就農する人には、個々の将来展望に沿って、品目の選定や栽培技術の習得方法について提案を行っています。まずは5年間の具体的な計画を立てることで自らの目標を定め、基本的には農業専業で生計が成り立つよう指導しています。

（３）軌道に乗るまでの伴走はおまかせ！

【はじめの一步が大事！】

就農5年以内の就農初期者を重点指導対象者と位置づけ、早期の経営安定を目的に定期的に訪問しています。経営が安定するまでに壁に直面することもあると思いますが、悩みや苦勞を乗り越えられるよう、全力で後押ししています。また、三徳園で開催されている実地研修にも参加を呼びかけ、就農初期者の技術向上につなげています。

【山陽もも初心者講座でレベルアップ】

J A岡山東モモ部会山陽支部は、部会員の家族や担い手候補の方等を対象として、わかりやすく、とことん質問にお答えする初心者講座を開講しています。25名が技術向上と情報交流を目的に参加し、活発に意見を交わしています。兼業農家が専業農家を目指したり、退職後の就農準備として参加したりする例があり、産地の担い手育成につながっています。

【経営研修会と専門家派遣で経営管理を支援】

経営管理能力の向上を目的に、経営研修会を開催しています。今年度の経営管理入門研修会では、ボードゲームを用いた体験型経営術（マネジメントゲーム）で財務管理会計の基本を学び、パソコン簿記入門研修では、農業簿記ソフトを使った簿記記帳を体験しました。

また、法人化や法人経営への支援として、法人化研修会の他、農業経営相談所を活用した税理士、社会保険労務士、司法書士等の専門家派遣により、個別の課題にも対応しています。



研修生を訪問



就農計画の検討



重点指導対象者の訪問



もも初心者講座の開催



経営研修会の開催

スマート農業実証中！

高齢化や担い手不足等の課題を解決するため、スマート農業技術を活用した取り組みが始まっています。スマート農業とはロボット技術やICT（情報通信技術）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現していく農業のことで、東備地域では、今年度から2年間の計画で赤磐スマート農業実証コンソーシアム（県など関係8組織で構成）が「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」（事業主体：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）に取り組み、水稻栽培でのスマート農業技術の活用による省力化等の実証を行っています。

リモコン操作で耕耘や代かきを無人で行う自動運転トラクタ、GPSで位置情報を把握し直進時はハンドル操作をしなくても一定の条間をキープしながら走行する直進キープ田植機、収穫しながらほ場内の食味値や収量をメッシュマップ状に自動で把握できる食味・収量コンバインなどを活用し、水稻の一貫体系としての評価を行うこととしています。

普及指導センターでは、実証の進行管理やデータ収集、研修会や視察対応での普及PR活動等を行っています。

スマート農業には、様々な利点もありますが、条件の悪いほ場では十分効果が発揮できない場合があること、導入コストが高くなること等から、条件にあった農機の選定や費用対効果を十分検討した上での導入が必要となります。



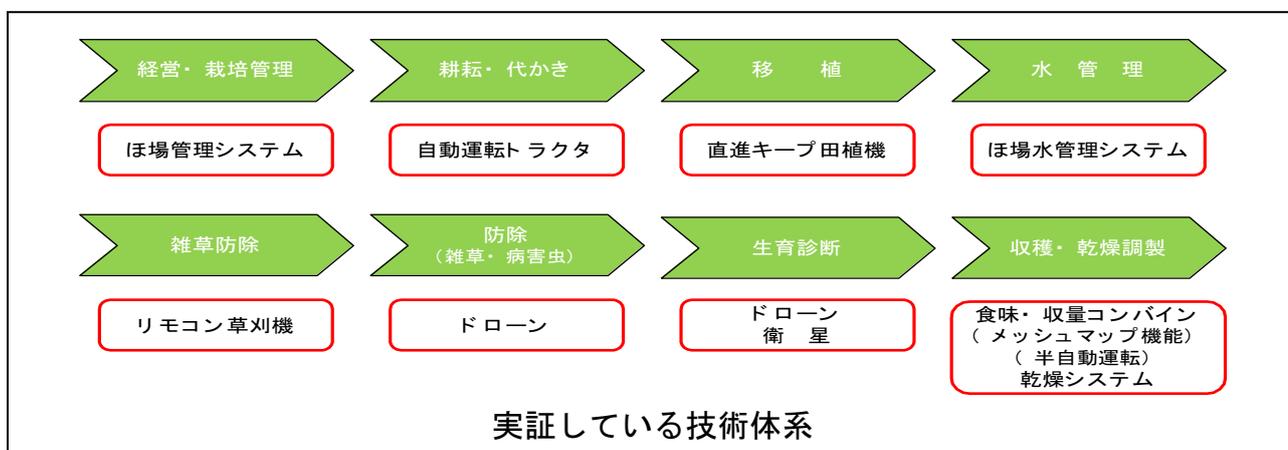
自動運転トラクタ



直進キープ田植機



食味・収量コンバイン



集落営農組織の多角化による経営強化

和気町の農事組合法人佐伯営農組合（構成員 45 名）は、平成 29 年の法人設立以来、関係機関（J A 全農おかやま、J A 岡山東、和気町、東備農業普及指導センター）と連携して、主食用水稲品種の規模拡大と特色ある農作物の導入を図ることで、多角化による経営発展に取り組んでいます。

水稲関係では、最近の中食・外食で使用する業務用米のニーズの高まりに対応して、多収性品種の「やまだわら」を 2.8ha 作付けました。関係機関と組合では、施肥方法を改善した実証ほを設置して、安定多収技術の確立に取り組んでいます。

また、酒造好適米の「雄町」の栽培にも取り組んでおり、「やまだわら」と併せて、既存品種の「ヒノヒカリ」、「アケボノ」等との作期分散によるコスト低減が期待されます。

野菜関係では、組合設立当初から、白ねぎを栽培しており、本年度は 13a を作付けしています。白ねぎは、個人で栽培してきたノウハウを組合全体で共有し、協力して防除・土寄せ等の作業をすることで、収量と品質の向上につなげています。

果樹関係では、加工用として出荷する「ピオーネ」の苗木を植え付けています。これは、組合が省力的に管理することで、優良な樹園地が遊休農地になるのを防ぐことも目的にしており、普及指導センターでは実証ほを設け省力栽培技術の確立に取り組んでいます。

そして、本年度は新たに二条大麦を 1.9ha 作付けており、農業機械の利用率向上が期待されています。

普及指導センターでは、関係機関と協力して、組合の経営診断を実施する等、引き続き多角化による経営強化を支援していきます。



やまだわらの施肥技術研修



白ねぎほ場での生育状況確認



加工用ピオーネの省力栽培技術を実証中



二条大麦の作付け

白ねぎの初夏どり品種の検討

J A岡山東管内の白ねぎ栽培は秋冬どりが主流ですが、さらに出荷期間を拡大し有利販売を図るため周年栽培を目指しています。そこで、普及指導センターでは初夏どり作型（5月中旬から7月下旬出荷）を確立するため、初夏どり用品種（「羽緑一本太」と「羽緑2号一本太」）の実証を和気町と備前市のほ場で行い、普及性を検討しました。

昨冬が暖冬であったこともあり、両品種とも生育は順調で5月下旬から出荷が始まりました。懸念されていた抽台は両品種ともほとんどなく、品質は良好で生産者に好評であったため、初夏どり品種として有望と考えられました。



収穫間近の初夏どり白ねぎ



収穫した新品种

今年度は、耐暑性、耐病性が強く、風雨による倒伏に強い新品种「羽生一本太」を新たに加え、3品種で実証することとし、10月中旬に播種しました。3品種の発芽率は良好で、12月に定植後、トンネル被覆しました。

初夏どりは出荷時期の調整が難しい作型ですが、出荷量が少なく高単価となる5月中旬から7月下旬の出荷が可能となるよう、今後も品種検討を継続していきます。



播種作業



新品种「羽生一本太」

「白皇」の出荷始まる！

J A岡山東モモ部会は、平成 27 年度に「白皇」の産地化に取り組むことを決議し、県内トップ産地を目指して、面積拡大に取り組んできました。「白皇」は盆明けの8月中旬から下旬に成熟し、従来はももの需要が少ないとされていた時期に収穫することができる白桃です。苗木が販売されて4年目を迎え、ようやく収穫が始まり共同選果場での機械選果と出荷が初めて行われました。

令和元年度は、出荷期間が8月18日から30日で、平均糖度が15.1度と高糖度でしたが、出荷量は約820kgと予想出荷量の半分でした。しかし、次年度は約300本の若木が4年目を迎え、10t程度の出荷が期待されています。出荷先は東京等の首都圏を目指しており、本年度は8月20日に大田市場（東京都）へ品物を持ち込み、仲卸、小売店の方を対象に食味評価会を実施したところ、「食味が良い」、「8月後半も白桃の需要はあるので、しっかり出荷して欲しい」と高い評価を頂きました。

糖度が非常に高く市場評価の高い「白皇」ですが、栽培面では「裂皮」による商品化率の低下が課題となっています。そのため、普及指導センターでは、赤磐市の山陽地区と赤坂地区に裂皮対策の実証ほを設置し、「裂皮」軽減効果のある掛け袋の検討に取り組んでいます。その他にも、「果梗内亀裂小果（イモ果）」の発生も他の品種と比べ多い傾向にあり、栽培する上で不明な点が多い品種です。部会では、「白皇」の特性と栽培のポイントを学ぶため、関係機関と連携し、白皇研修会を開催（4月19日、5月30日）する等、高品質安定生産に向けて取り組んでいます。

普及指導センターでは、「白皇」がJ A岡山東の新しい顔となれるよう、引き続き高品質安定生産を支援していきます。



「白皇」の初選果



東京青果での食味評価会



裂皮の発生



白皇研修会の開催

「オーロラブラック」 “盆前出荷”で需要をつかむ

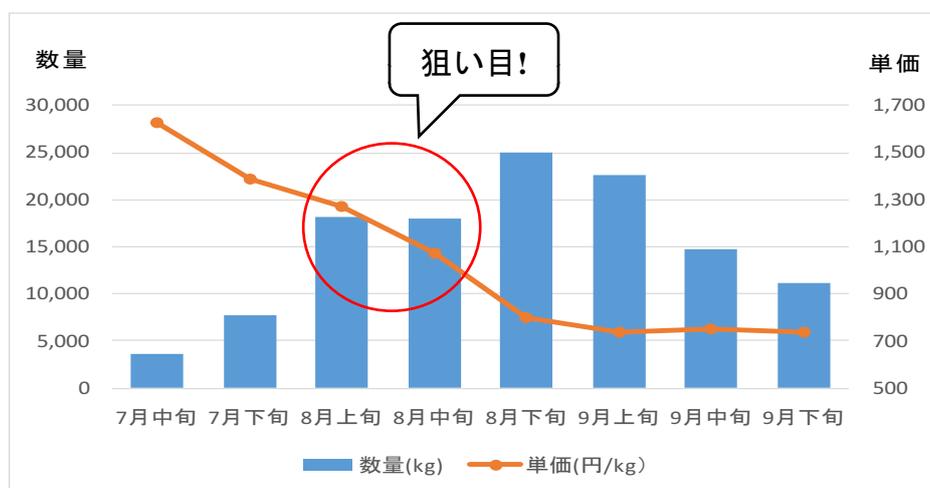
普及指導センターは、岡山県が育成した黒色系ぶどう「オーロラブラック」の高品質安定生産によるブランド強化に取り組んでいます。ブランド力を高めるための一つとして取り組んでいるのが、品種特性を活かした盆前出荷です。「オーロラブラック」は県を代表する「ピオーネ」より成熟期が早いため、地域によっては加温や無加温ハウスを導入することなく、簡易被覆（トンネル）栽培で、需要が高く、高単価で販売可能な盆前に収穫できます。JA全農おかやまによれば、8月上旬中旬の市場単価は、通常の出荷時期である8月下旬から9月上旬の1.5倍になります。

しかし、安定的に盆前出荷を行うためには、休眠打破剤や発芽促進剤の処理、被覆の早期化等の技術を導入する必要があります。普及指導センターでは、JAと連携し、技術指導にあたっています。今年も、この技術を導入した赤磐市や和気町のぶどう園では、生育が順調に前進し、8月上旬から収穫できました。生産農家は「高単価で販売できることはもちろん、他の品種との作業分散もでき、メリットが大きい。来年以降も取り組みたい」と有利性を実感しています。

「オーロラブラック」の栽培面積は他品種と比べ少ないですが、JAや普及指導センターは定期的に研修会や講習会を開催し、栽培技術の向上や盆前出荷技術の導入を図っています。今後も盆前出荷を起爆剤として生産拡大を図り、農家所得向上につなげていきます。



「オーロラブラック」の
盆前出荷技術について学ぶ生産者



「オーロラブラック」の時期別出荷量、平均単価
(JA全農おかやま 過去5か年データより)

経営管理をステップアップ!

普及指導センターでは、地域の農業を担う農業者の経営支援を目的として、経営管理、税務、法人化等を学ぶステップアップ研修会を毎年開催しています。今年度開催した研修会について紹介します。次年度も同様の研修を実施しますので、経営についてのお悩みがある方は、是非研修会にご参加ください。

また、研修会とは別に、農業経営相談所と連携して専門家を派遣する個別相談も行っています。法人化や経営継承等について専門家の支援を希望される方は御相談ください。

〈実施した研修会〉

研修会名	実施日
経営管理入門	令和元年 11 月 5 日
農業なんでも税務相談	令和元年 11 月 26 日
農業経営継承	令和元年 11 月 27 日
法人化（経営分析・概要）	令和元年 12 月 10 日
消費税軽減税率	令和元年 12 月 12 日
法人化（労務関係）	令和元年 12 月 20 日
パソコン簿記相談	令和元年 6 月～ 令和 2 年 3 月
パソコン簿記	令和 2 年 1 月 10 日、28 日他



パソコン簿記相談会

〈主な研修内容〉

【農業経営継承研修】

円滑な経営継承を行うために知っておきたい知識として、中小企業診断士から経営を譲渡する経営主と譲渡を受ける後継者がすべきことや心構えを、税理士から委譲する資産の扱いや相続の対策を学びました。

【法人化研修（経営分析・概要編、労務関係編）】

現状の経営状況を把握するための分析方法や、今後の経営についての考え方を学んだ後、経営発展のための法人化のメリットやデメリット、株式会社、合同会社、農事組合法人の違い等について学びました。

また、規模拡大等に伴い、雇用が必要となる経営体が増えています。使用者には社会的な責任が生じることから、社会保険労務士から使用者が知っておくべき知識を学びました。

【消費税軽減税率講習】

令和元年 10 月 1 日から始まった消費税軽減税率に伴う記帳や申告の変更点、令和 5 年 10 月から始まる適格請求書等保存方式（インボイス制度）について、税務署の職員から学びました。

【パソコン簿記相談】

令和元年 6 月から令和 2 年 3 月までの第 2 木曜日を基本に、東備地域事務所でパソコン簿記相談会を実施しています。仕訳や税制改正等、簿記記帳の課題について相談を受けています。

6次化で儲かる農業となるために！

〈初心者講座の開催〉

普及指導センターは、備前県民局管内で新たに6次産業化に取り組もうとする意欲的な農業者を対象に、初心者講座を全4回開催し19名（うち東備地域12名）が受講しました。

【1回目（9月5日）】「6次化商品を作ってみよう」

（一社）岡山県農業開発研究所で開催し、農林水産総合センター職員から「6次産業化とは」について講義後、同開発研究所の職員から「加工の基礎知識」の講義と「黄金桃のシラップ漬とゼリー」の加工実習を行いました。



加工実習で
ももの種取りをする受講者

【2回目（10月16日）】「売れる6次化商品の考え方」

備前県民局会議室で開催し、D&M SOLUTIONの高橋志織代表を講師に迎え、新商品開発のための柔らかな発想法について事例を交えた講義と演習を行いました。

【3回目（10月29日）】「備前地域の6次産業化事例を知ろう」

赤磐市の「さくらさく農園」、岡山市の「(株)夢百姓」、瀬戸内市の「(株)一文字」と「牡蠣の家しおかぜ」の6次化認定事業者4か所を視察しました。



「(株)夢百姓」で
ハーブの説明を聞く受講者

【4回目（11月19日）】「儲かる農業となるために」

中小企業診断士の近藤厚志氏を講師に原価計算による正しい値決めの方法について講義と演習を行い、その後、市内百貨店の県内特産品コーナー担当者から「売れ筋商品の紹介」を行いました。

受講生からは、「毎回充実した内容で勉強になった」、「色々アンテナを広げ現実化していきたい」等の声が聞かれ、普及指導センターでは今後も受講生が次のステップに進めるようフォローアップに取り組んでいきます。

〈ミニ6次化ふえ開催とPR〉

6次産業化を目指す農林漁業者等の情報を関係機関で共有するため、各市町ごとに「ミニ6次化ふえ」を開催しています。「ミニ6次化ふえ in 赤磐」（7月19日）では「市内農業者へ6次産業化をPRしてはどうか」との提案があり、「あかいわ祭り」（11月3日）で6次化商品の展示や試作加工品の試食・アンケート等を行いました。「白桃ジャムは甘さ控えめでおいしいが値段が高いのではないか」や「芋ようかんは芋の味がしておいしい」等の意見を頂き、今後、これらの意見を商品開発に反映していきます。



「ミニ6次化ふえ in 和気」の様子（8月1日）



「あかいわ祭り」で試食・アンケートを実施

しきみ管理作業らくらく技術！

～低木仕立ての推進～

東備地域はしきみの生産が盛んで、朝日が良く当たり西日が早く陰る山間部の緩傾斜地等で栽培していますが、高木仕立てで樹高が高くなり、収穫、農薬散布等の労力が負担になり、課題になっています。

そこで、普及指導センターでは、備前市、赤磐市で低木仕立て実証を行うとともに、管内外の低木仕立ての事例調査を参考にして、しきみの栽培マニュアルを作成しました。

今後、マニュアルを活用し、省力管理技術として、低木仕立てを推進していきます。



低木仕立て実証ほ場



栽培マニュアル

〈低木仕立ての実際〉

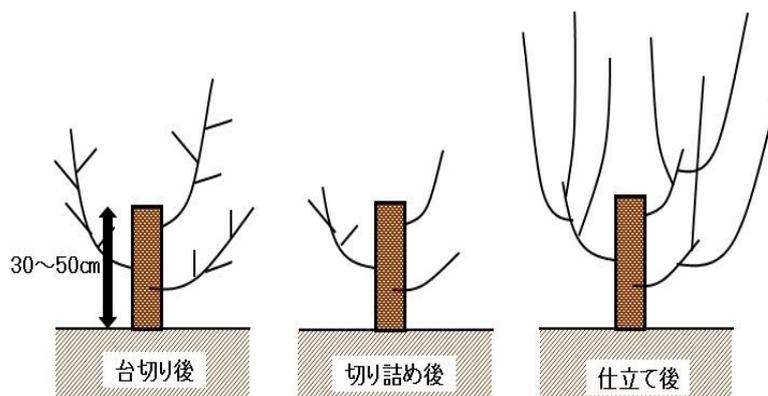
新植3年目を目安に、樹高1～1.5mになった後、12月から翌年2月に地上30～50cmのところで初収穫を兼ねて切り枝(台切り)を行い、残った枝を3本に整理し主枝とします。その後、1m程度に伸びたら、15cm程度にまで切り詰めます。そこから出る立った強い枝を3本残して、弱い枝や下垂した枝は除去し、その後も同様に整枝します。

高木になった再生園でも、12月から翌年2月に地上30～50cmのところで台切りを行い、仕立て直します。その後発生した枝を3本に仕立て、上記と同様の管理を行います。

また、実証栽培の結果、地上部付近から若い芽(ひこばえ)が発生している株は再生しやすいことが確認されています。備前市では、株元付近で台切りを行い、ひこばえをそのまま伸ばして、台切りの2～3年後から収穫を行う超低木仕立ての実践例もあります。



再生園での低木仕立て



低木仕立て方法

四ツ☆子牛の認定率向上を目指して！

～和牛繁殖農家の取組～

岡山県では、おかやま和牛子牛のレベルアップを目指して、市場出荷時に右の4つの基準をクリアした子牛を「おかやま四ツ☆子牛」（以下、「四ツ☆子牛」）として認定し、当日のセリで表示販売する取り組みを行っています。認定牛は、その後の発育や枝肉に良好な成績が得られるため、高値で取引されています。

東備地域の和牛繁殖農家は、以前から「四ツ☆子牛」の認定率が高く、優良な和牛子牛を出荷していますが、更なる認定率向上を図るために様々な取り組みを行っていますのでご紹介します。

〈巡回指導で発育をチェック！〉

和牛繁殖農家は、JA岡山東をはじめとする関係機関の協力のもと、年9回ある和牛子牛市場の1週間前に体高や体重等を測り、発育状況をチェックしています。測定後は、順調に発育しているかどうかを発育グラフで確認し、餌の量や飼育環境等を検討するようにしています。

定期的に発育をチェックすることで、これまでの餌の給与量を改善し、良好な発育につながった事例もあります。

〈研修会等を開催し、飼養管理を勉強！〉

東備地域の畜産農家では、東備畜産研究会というグループを作り、年1回先進地視察研修を行っています。県内の先進的な農家から様々な刺激を受けることで意識高揚や飼養管理の研鑽につながっています。

備前県民局畜産班では、今後も「四ツ☆子牛」の認定率向上を目指し、農家のサポートをしていきます。

〈四ツ☆子牛認定基準〉

☆出荷日齢

雌 225～284日齢

去勢 215～274日齢

☆体高及び胸囲

発育基準の1.0σ以上

(σ：標準偏差)

☆胸囲と腹囲の差

22cm以上

☆過肥、著しい瑕疵、損徴がないこと



体高の測定風景



先進地視察研修（東備畜産研究会）

各種表彰受賞団体・受賞者の紹介

～皆さん おめでとうございます～

※敬称は略させて頂いております

令和元年度（第59回）岡山県農林漁業近代化表彰

吉井ぶどう生産出荷組合（赤磐市）

昭和37年頃から続く歴史あるぶどう産地であり、標高350mの冷涼な気候を生かし、「ピオーネ」等の高品質生産に取り組まれています。

高齢化等により、平成20年頃に最盛期の約1割まで産地規模が縮小したため、地域や関係機関が一体となって新規参入者の受入による産地の復興と地域活性化に取り組まれました。その結果、6名の新規参入者を確保し、耕作放棄地の再生により産地規模は回復傾向にあります。

近年では、収穫祭の開催による地域外住民との交流、ICT機器を活用したベテラン農家の技術伝承に取り組む等、組合員が一体となって産地の維持、活性化に取り組まれています。



組合長の田村敏浩さん

第52回岡山県農林漁業功労者表彰 農林水産部長表彰

川上 恒（赤磐市）

是里地区のぶどう農家の後継ぎとして、高校卒業後、会社勤務の傍ら、ぶどう栽培に取り組み、栽培技術の研鑽、家業の経営安定に努めてこられました。平成22年には、大雪によるハウス倒壊を経験されましたが、雪害を契機に是里地区でいち早く「シャインマスカット」を導入され、高品質生産を実践されています。このことが、地域に「シャインマスカット」の導入が進むきっかけとなりました。

また、産地のリーダーとして、担い手確保・育成や栽培技術の高位平準化、販路拡大に関して強いリーダーシップを発揮され、最盛期の1割弱まで減少した是里地区のぶどう栽培面積を再び増加させる等、歴史あるぶどう産地の存続に貢献されてきました。



川上恒さん

平成 30 年度（第 26 回）農業簿記利用優良経営表彰 実践奨励賞 石野謙一 石野和枝（和気町）

酪農経営をしていた昭和 57 年に手書きの複式簿記記帳を始め、昭和 62 年からパソコン簿記記帳に取り組み、経営管理のスキルアップを図ってこられました。

平成 15 年に酪農から和牛繁殖に経営転換されましたが、この際長年の簿記記帳が転換の判断に生かされました。その後も熱心な技術習得に加え、地域の耕作放棄地を活用した放牧により飼料費を削減し、安定した経営を実現されています。

現在はパソコン簿記相談会の主力メンバーとして、若手育成にも貢献されています。



左から石野謙一さん、石野和枝さん

県共進会受賞者

〈令和元年度岡山県ピオーネ・オーロラブラック共進会〉

【ピオーネの部・うまいくだものづくり推進本部長賞（奨励賞）】

大森 啓二郎（赤磐市）

是友 隆行（赤磐市）

【オーロラブラックの部・岡山県農業共済組合組合長賞】

木下 雅晴（赤磐市）

【オーロラブラックの部・うまいくだものづくり推進本部長賞（優秀賞）】

田村 敏浩（赤磐市）

【オーロラブラックの部・うまいくだものづくり推進本部長賞（奨励賞）】

中谷 泰文（赤磐市）

【新人賞（公益財団法人岡山県農林漁業担い手育成財団理事長賞）】

木下 雅晴（赤磐市）



左から 木下さん、大森さん、田村さん、是友さん、中谷さん

岡山県備前県民局農林水産事業部

東備農業普及指導センター

〒709-0492

岡山県和気郡和気町和気487-2（備前県民局東備地域事務所2F）

担い手・農産班 TEL 0869-92-5176

（米麦などの穀類、担い手育成、集落営農についてはこちらへ）

園芸班 TEL 0869-92-5177

（果樹、野菜についてはこちらへ）

FAX 0869-92-0524

E-mail tobi-fukyu@pref.okayama.lg.jp

備前広域農業普及指導センター

〒709-8604

岡山市北区弓之町6-1（備前県民局3F）

革新農業推進班 TEL 086-233-9845

（花き、6次産業化、農業経営や制度資金についてはこちらへ）

FAX 086-224-1187

E-mail oka-fukyu@pref.okayama.lg.jp

農畜産物生産課

〒709-8604

岡山市北区弓之町6-1（備前県民局3F）

畜産班 TEL 086-233-9828

（畜産についてはこちらへ）

FAX 086-234-9064